

校長のあいさつ

『はじめに』

このたび校長として着任しました吉岡 智昭(よしおか ともあき)です。福栄小中学校の74名の子どもたちと、自然豊かな福栄地域のために、誠心誠意頑張ります。どうぞ、よろしくお願いします。

『県立美術館で・・・』

先日、山口市の県立美術館に行った際に、コレクション展の一つとして、小林和作展をやっていました。これまで、何度も県立美術館に足を運んでいるのですが、実は、あまり小林和作の作品を本気で鑑賞したことはありませんでした。ところが、今回、なぜか気になって、初めてじっくりと鑑賞しました。展示してあった作品はいずれも風景画なのですが、どの作品を見ても、温かみや親しみ、そして居心地のよさを感じました。こんな感覚になったのは初めてで、自分でも少々驚いてしまいました。一通りの作品を見終わり、展示スペースの入口付近に掲示してあった解説を読んだときに「あっ」と思いました。そこには、小林和作は日本の美しい風景の「典型」を描いたと書いてあったのです。わたしは、福栄小中学校に赴任してこの一か月間、毎日、校長室の窓から福栄の美しい風景を目にしてきました。私の中で、この福栄の風景と、小林和作の描く美しい風景の「典型」が見事に一致したのです。福栄の美しい風景に囲まれながら仕事ができる幸せを感じつつ、福栄小中の子どもたちのために校長としての職務に誠心誠意向き合っていきたいと思えます。

『めざす福栄小中学校のすがた』

さて、本校は、県下初の施設一体型小中一貫教育校としてスタートし、今年で3年目となります。児童生徒が共に活動し、小中学校の教員が日常的に校種を超えて児童生徒の指導に当たることができるという小中一貫教育校の強みを生かして、小学部高学年での教科担任制の授業など、福栄小中学校だからこそできる教育活動を充実させていきたいと考えています。また、9年間を見通してふるさと福栄を学ぶ「ふくえ学習」を中心に、美しい自然に囲まれた福栄の「ひと・こと・もの」を生かした教育を実践することを通して、地域とともにある学校づくりを進めて参ります。本校では、保護者の方や地域の方による学習支援ボランティアが根付いており、今年度もすでに、花生けボランティアや読み聞かせボランティアなど、多くの方にご来校いただいております。ボランティアの充実は、教育環境の向上に直結します。今年度も様々なボランティアの募集を行いますので、ご協力をお願いします。第1回目の学校運営協議会の中で、地域の方から福栄小中学校は「地域一貫教育校」であってほしいというお話がありました。今後、ボランティアという形に限らず、様々な年齢層の地域の方が学校に集う仕組みを考えていきたいと思えます。

本校は、『ふるさと福栄』に思いを寄せ、志を抱き、未来を切り拓く力を身に付けた児童生徒の育成」を教育目標として掲げております。教職員一同が一丸となって教育活動を推進してまいります。学校だけでなく、家庭や地域がそれぞれの強みを生かし、連携していくことによって、福栄の子どもたちは大きく成長します。保護者の皆様、地域の皆様にもぜひともこの教育目標を心にとどめていただき、本校の教育活動にご協力いただければと思えます。どうぞよろしくお願いします。

